

【取組の概要】

県指定天然記念物「天王桜」を活用した、河川景観の保全と親水性の高い河川空間の創出

【体制】

山梨県峡東建設事務所 河川砂防管理課

山梨市建設課

【取組内容】

根入部が侵食された護岸



護岸背面が空洞化



老朽化により通行不可の人道橋



荒廃した赤道



整備後



天王桜



架替えた人道橋



整備した赤道



[1] 取組経緯

- 急流河川である赤芝川の当該箇所は、右岸側の石積護岸は基礎部が露出し、吸い出しにより護岸背面も空洞化状態であり、左岸側は荒れた竹林で覆われた状態で、地元の膝立区から県へ改修の要望が出されていた。
- 当時、生活関連土木施設整備事業という事業があり、当該箇所の直近に県指定天然記念物の「天王桜」があることから、景観との調和を図りながら、老朽化により利用者も無かった人道橋と赤道を整備し、人々が親しめる河川空間の創出を考慮し計画を策定した。
- 設計途中で山梨市役所並びに膝立区の住民に計画案を提示して合意形成を図った。

[2] 工夫した点

- 赤芝川の治水安全度の向上と地元の人々や観光客が水に親しめ、天王桜を堪能できる憩いの空間が確保できるような計画とした。
- 天王桜周辺の景観に配慮するため、護岸・河床については現地発生材の巨石を使用し、巨石張護岸は深目地施工とした。
- 親水性確保のため、河川に下りられるように階段を設置し、既存の老朽化した橋については景観に配慮し鋼桁木橋により復旧をした。

[3] 取組効果

- 巨石護岸により、治水面の安全度を上げるとともに、自然巨石により形成された赤芝川の上流部との連続性を確保したことで、河川景観の保全ができた。
- 赤道を赤芝川及び天王桜と調和した計画で整備したことにより、全てが一体の空間となり、人々の憩いの場を創出することができた。

[4] 取組の今後の展開及び課題

- 県で管理する河川全般の課題として、河川敷地内の除草や伐木に要する費用が不足している。

[5] 事業費、財源とした補助事業等

《山梨県》

- 生活関連土木施設整備事業費（県単独費）

《山梨市》

- 人道橋（全額）